

**(業務名称) 北海道における外国人材の現状・課題等に関する調査**

(公示日：2019年8月29日) について、企画競争説明書に関する質問と回答は以下のとおりです。

2019年9月18日

独立行政法人国際協力機構  
北海道センター  
契約担当役 所長

| 通番 | 該当頁   | 該当項目   | 質問  | 回答  |
|----|-------|--|---|---|
| 1  | p 4   | 6. 競争参加資格の確認<br>(2) 共同企業体、再委託について  | 補強により再委託を行う場合の同意書は、競争参加資格の確認の際に提出するのか、プロポーザルと一緒に提出するのか、どちらのタイミングで提出すればよいか。  | 企画競争説明書のp 4 (2)「共同企業体、再委託について」に記述の通り、再委託は原則禁止ですが、一部業務の再委託を希望する場合は、プロポーザルに再委託予定業務内容、再委託先企業名等を記述して下さい。再委託先企業等との同意書提出は必要ありません。   |
| 2  | p 1 2 | 第2 業務仕様書<br>3. 業務の内容<br>(2) 関連情報の収集・分析<br>④海外調査対象国   | ○海外調査対象国はベトナムとバングラデシュで確定なのか。その場合、なぜバングラデシュが対象国なのか、その理由をご教示頂きたい。<br><br>○【海外調査対象国は、ベトナム、バングラデシュ等を想定しているが、JICA農村開発部が実施中の「東南アジア地域地方創生とODAとの連携の可能性に係る情報収集・確認調査」により送出国の調査が行われることになっているため、同調査と調査内容等の重複が極力ないようにする。】とありますが、「東南アジア地域地方創生とODAとの連携可能性に係る情報収集・確認調査」の内容と国内調査の結果を踏まえて、調査対象を変更する可能性もあり、その際は発注者の確認の上、契約内容（現地調査対象地域）の変更を決定するという理解でよろしいでしょうか。 | ○海外調査対象国はベトナムとバングラデシュで確定ではありません。本調査の目的等をご理解のうえ他に適当な対象国がある場合は、その理由を明記の上、プロポーザルで提案してください。なお、バングラデシュを調査対象国候補とした理由は次の通りです。企画競争説明書のp 1 3「4. 業務実施上の留意点(1)」にある通り、調査対象外国人材（主に高度外国人材を想定）の分野・業種等に関しては、「ICT、介護、農業・漁業」などを候補と想定している。このうちICTに関しては、バングラデシュ人材の有効性がJICAの技術協力プロジェクト「日本市場をターゲットとしたICT人材育成プロジェクト」( <a href="https://www.jica.go.jp/activities/project_list/knowledge/ku57pq00002kfqa0-att/2018_051_ban.pdf">https://www.jica.go.jp/activities/project_list/knowledge/ku57pq00002kfqa0-att/2018_051_ban.pdf</a> のp 76~78を参照)によって確認されています。また、同プロジェクトの養成プログラム修了者が実際に札幌市内のICT企業5社に16名が採用されていることから、バングラデシュ人材が有望との認識のもとに、ICT人材海外調査対象国候補としてバングラデシュを選んだものです。<br>○そのような理解で間違いありません。ただし、プロポーザルにおいては、企画競争参加者が海外調査対象国等についても提案してください。調査開始後に、必要に応じて「発注者」と「受注者」が協議のうえ、プロポーザル提出時の対象国が変更になる可能性があります。 |
| 3  | p 1 2 | 第2 3. (4)ドラフト・ファイナル・レポートと (5) ファイナル・レポート   | ドラフト・ファイナル・レポートはパワーポイントで可、とあるが、ファイナル・レポートは通常のA4サイズの文書と考えてよいか。その場合、全体で何ページぐらいが想定されているか。  | ファイナルレポートはA4サイズの文書で提出いただきます。ページ数の想定はありませんが、調査の進捗状況に応じて「受注者」と協議のうえ決定します。   |
| 4  | p 1 7 | 評価表 3.業務従事者の経験・能力 (1) 業務総括者  | 総括が評価対象となっていますが、国内の経験が豊富な者と、海外の経験が豊富な者を正副の総括として提案した場合、その双方を評価対象としていただけるのでしょうか。  | 総括の評価は1名のみ行います。正副両方の総括を提案いただく場合は、正の総括を評価します。  |
| 5  | p 1 8 | ○評価表 3.業務従事者の経験・能力 (2) 在住外国人実態・課題調査 (3) 支援メニュー調査<br>○第3 プロポーザル作成要領別紙 評価表<br>3. 業務従事者の経験・能力 | ○(2) 在住外国人実態・課題調査及び(3) 支援メニュー調査の要員はそれぞれ2名づつ、要員についてプロポーザルに記載するのか。<br><br>○(2) 在住外国人実態・課題調査、(3) 支援メニュー調査は、それぞれ2名となっていますが、合計4名を評価対象として企画提案するという理解でよろしいでしょうか。それともP 1 4のプロポーザル作成要領(3)業務従事者の経験・能力等【エ. その他2名】【オ. その他2名の特記すべき類似業務の経験】には、その他2名となっておりますので、合計で2名となりますでしょうか。  | ○それぞれに2名の配置を提案する場合は、合計4名の要員についてプロポーザルに記載ください。なお、p 1 9の1. (1)「想定される経費の費目構成」ア. (イ)～(オ)では上限人数をいずれも2名としていますが、分担業務によって1名のものがあっても差し支えありません。<br>○評価対象の「在住外国人実態・課題調査」と「支援メニュー調査」に関して、2名を提案する場合は、2名とも評価対象とするか、2名のうち1名のみを評価対象とするか、応募者がどちらを希望するかをプロポーザルに明記してください。(2名評価対象とする場合は、1名当たりの配点は2.5になります)<br>○なお、企画競争説明書のp19の「ア. 直接人件費(以下を上限とする)」に、各担当業務の人数、従事月数の上限を記載してありますが、これを下回る人数、月数での提案でも差し支えありません。  |
| 6  | p 1 9 | 見積書の作成について   | (1) 可能な範囲で詳細な内訳をつけて見積書を作成とありますが、【企画競争入札】用の見積内訳書の様式はJICAホームページには見当たりませんでした。特に決まった様式はございませんでしょうか。   | 決まった様式はありませんので、任意の様式で見積書を作成願います。経費の内訳に関しては、企画競争説明書p 19の「想定される経費の費目構成」を参照ください。なお、積算に当たっては、次の点に留意してください。<br>①一般管理費(3 5%)は、ア. 直接人件費と直接経費(イ. 旅費+ウ. 報告書作成費+エ. 一般業務費)の合計に0.35を乗ずる<br>②消費税(1 0%)は、ア. 直接人件費と一般管理費の合計に0.1を乗ずる<br>③合計見積額は、ア. 直接人件費+直接経費(イ. +ウ. +エ.) +一般管理費(3 5%) +消費税(1 0%)で積算する。   |
| 7  | p 1 9 | 第4 1. (1)ア. 団員構成   | (イ)～(オ)のポジションでそれぞれ2名体制が想定されているが、その必要性・理由は何か。可能な範囲でご教示いただきたい。  | 北海道内外及び海外での調査を実施し、国内外の支援・貢献メニューを約4ヵ月間という短時間でまとめる調査ですので、総括以外の要員配置をそれぞれ2名体制にして、確実に期間内に調査を終了したいという意図によるものです。それぞれを2名体制にすることは必須ではなく、確実に調査を実施できると判断される場合は、その調査方針、計画、実施体制(要員配置計画)等をプロポーザルで提案いただいで差し支えありません。  |
| 8  | p 1 9 | 第4 見積作成及び支払いについて<br>1. 見積書作成について   | 旅費について、国内、海外ともに1名分のみの積算となるのか。   | 旅費については、必要な人数分の積算をしてください。   |
| 9  | p 1 9 | 第4 見積作成及び支払いについて<br>1. 見積書作成について   | 道内の旅費について、上限(5ヵ所まで等)はあるのか。  | 道内の旅費について上限はありませんが、プロポーザルで対象地、期間、目的、回数などを提案し、必要な旅費について積算をしてください。  |